

2016年第29回IFSCC基礎研究賞受賞 日本ロレアル リサーチ&イノベーションセンター 化粧品業界で初めて成功、毛髪データを音に変換 — 消費者の感性に応える新手法 —

<報道資料>

2016年11月29日

世界最大の化粧品会社ロレアルグループの日本法人である日本ロレアル株式会社(東京都新宿区、代表取締役社長ジェローム・ブリュア)のリサーチ&イノベーションセンターは、2016年10月30日-11月2日にアメリカ合衆国オーランド(フロリダ州)で開催された第29回国際化粧品技術者大会(The 29th IFSCC Congress)で最も優れた基礎研究に与えられる「IFSCC 基礎研究賞」を受賞しました。受賞した研究は、野村麻利子日本ロレアル リサーチ&イノベーションセンター研究員らによる「ソニフィケーション: 髪の状態を音楽に変換して表現する方法(SONIFICATION: Translating the human hair surface state into sound)」で、音に関する最先端技術を駆使した音楽制作、音響デザインの第一人者である井出祐昭氏が主宰する有限会社エル・プロデュースとの共同研究です。

化粧品業界で初めて、毛髪データを音に変換

毛髪の表面はうろこのようなキューティクルという構造が規則正しく並んでいますが、この構造はブラッシングなどの外部刺激によって、毛髪が成長する間に少しずつダメージを受けます。ダメージを受けた毛髪は艶を失ったり、手触りが悪くなったりしますが、これは毛髪表面の構造が変化することによるものです。受賞した研究では、毛髪表面の摩擦の微細な変化を高感度センサーで感知し、そのデータを特殊なソフトウェアを用いて音や音楽にリアルタイムに変換し、可聴化することに成功しました。医療分野ではがん治療などにおいて患者自身の血流を音楽で表現し、痛みを和らげるなどに採用されていますが、化粧品業界においては初めての取り組みとなります。

「「髪が奏でる音楽」によって髪の状態を美的に知ることができるという発想から生まれたこの先進的な技術が、IFSCCで世界的に受け入れられたことをたいへん嬉しく思っております。このようなアプローチは、消費者体験(UX; User Experience)の中でもより直感的で、より分かりやすく、より深い関わりを得られるもので、これこそ新しい時代の表現なのではないかと思えます」と、井出氏はコメントしています。



【イメージ写真】

新技術の多様な活用：消費者の感性に応える

同技術はサロンで施術するお客様に、施術前の毛髪の状態を5段階で評価し、トリートメントなどの施術後の修復の効果を、音楽を通して表現することができ、これまでお客様が感覚的に感じていた毛髪の状態をデータと音でよりわかりやすく実感することが可能となります。今日、イノベーションは技術や機能だけではなく、消費者の感性に応えることがますます求められています。日本ロレアルでは、化粧品評価の場面において新しい消費者体験を提供するツールとして、2017年からサロンに同技術を採用した機器を展開するほか、今後、肌状態やメイクアップなどへの応用や、新製品の効能効果を訴求する際のプロモーションなどに広く活用していく予定です。

日本発のイノベーションに注力

日本ロレアルのリサーチ&イノベーションセンターでは「世界から日本へ、日本から世界へ」という理念のもと、革新的なイノベーションの創出に注力しています。日本はアジアの研究開発の戦略的イノベーション拠点として位置づけられ、ヘアケア、スキンケア、メイクアップのすべての分野において日本発の成果を挙げています。今回発表された技術は、風鈴の音で涼しさを感じるなど、音を通じて感じる日本独自の発想や感性をヒントに考案されています。

2015年10月から開催され、日本とフランスが共催する「日仏イノベーション年」において、日本ロレアルは外資化粧品会社でいち早く30年以上前に研究開発拠点を日本に開設し、以来長年にわたって培ってきたイノベーションの実績が高く評価され、同プログラムに参加しています。

国際化粧品技術者大会 (IFSCC)について

国際化粧品技術者会連盟 (IFSCC) が二年に一度開催する化粧品技術に関する最も権威のある研究発表会です。この度、受賞した **IFSCC 基礎研究賞** は、IFSCC 大会中もっとも優れた基礎研究の発表に与えられる賞です。同研究については、11月30日(水)に東京・大井町の「きゅりあん」で開催される IFSCC2016 オーランド大会国内報告会にて日本語で再度発表します。

【受賞研究】



“SONIFICATION: Translating the human hair surface state into sound”
Mariko NOMURA¹, Damien VELLEMAN¹, Akiko KAMIGORI¹, Hiroaki IDE²,
and Frederic FLAMENT³

¹ Nihon L'Oréal Research and Innovation, Kawasaki, JAPAN

² EL PRODUCE Inc., Ide Sound Institute, Tokyo, JAPAN

³ L'Oréal Research and Innovation, Chevilly-Larue, FRANCE

「ソニフィケーション: 髪表面状態を音楽に変換して表現する方法」
野村麻利子¹、ベルマン・ダムアン¹、上郡明子¹、井出祐昭²、
フラマン・フレデリック³

¹ 日本ロレアル株式会社 リサーチ&イノベーションセンター

² エル・プロデュース、井出 音 研究所

³ ロレアル リサーチ&イノベーション

有限会社エル・プロデュースについて (elphonic.com、elproduce.com)

ヤマハ株式会社チーフプロデューサーを経て、2001年有限会社エル・プロデュースを設立(代表取締役:井出祐昭)。音に関する最先端技術を駆使し総合的にプロデュースすることにより、様々なエネルギー空間を創り出す『サウンド・スペース・コンポーズ』の新分野を確立。主な音響作品として、新宿・渋谷駅の発車ベルシステム、NHK スペシャル『月山』、愛知万博、表参道ヒルズなど。著書に『見えないデザイン』(ヤマハミュージックメディア)、『分子の音』(毎日新聞社)。講演やメディアにおいて、音の持つ「見えないもの」の可能性を広めています。

日本ロレアルについて (www.nihon-loreal.jp)

1963年から事業を開始し、1996年に日本法人である日本ロレアル株式会社が設立されました。2,500人の従業員を有し、化粧品の輸入、製造、販売、マーケティングを行っています。現在、「ランコム」「シュウ ウェムラ」「キールズ」「イヴ・サンローラン」「ロレアル パリ」「ロレアル プロフェッショナル」「ケラスターゼ」「メイバリン ニューヨーク」など22のブランドを取り扱っています。

日本ロレアル リサーチ&イノベーションセンターについて

1983年にアジアで初めて創設された日本のリサーチ&イノベーションセンター(川崎市・溝の口)は、基礎、応用、開発、評価のすべての研究段階を備えています。220名以上の研究者を有し、うち女性研究者は58%超を占めています。30年以上にわたって、ヘアケア、スキンケア、メイクアップなど、日本独自のイノベーションを提供し、アジアのみならずグローバル規模で美容習慣に大きな変革をもたらしてきました。2012年からアジアにおける研究開発の中心的な役割を担い、イノベーションを加速させています。

報道機関からのお問い合わせ先:

日本ロレアル株式会社 コーポレート・コミュニケーション本部 船津
TEL: 03-6911-8104 EMAIL: lisa.funatsu@loreal.com